

様式第23号（第5条関係）

令和 6 年 3 月 31 日

笠岡市長 殿

所在地	笠岡市六島7572
協議会名	六島まちづくり協議会
協議会長名	会長 三宅 千歳

令和 5 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）
変更申請書（兼）実績報告書

令和 5 年 6 月 1 日付け笠岡市指令協第 279 号で交付決定を受けた交付金について、次のとおり交付額の変更を申請します。併せて、次のとおり活動が完了したので、笠岡市魅力あるまちづくり交付金交付要綱第5条の規定により関係書類を添えて報告します。

記

1 変更交付申請額 497,520 円
(交付金決算額)

[内訳]

(単位：円)

交付決定額 ①	変更交付申請額（交付金決算額）		返還額 ④
	当該年度支出額 ②	次年度繰越額 ③	
498,000	497,520		480

2 交付金が減額変更になった理由

経費削減に努めたため

【添付書類】

- (1) 笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）活動実績明細書（様式第24号）
- (2) 笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）収支決算書
(様式第25号又は様式第25号の1)
- (3) 支払書類（レシート等）の原本（活動ごとに取りまとめたもの）
- (4) 事業の実施状況がわかる写真及び成果品
- (5) その他参考となる書類

様式第24号（第5条関係）

令和 5 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）活動実績明細書

協議会名 六島まちづくり協議会

活動No	1
活動名	山道整備
前年からの繰越金	

1 目的、活動実施により期待される効果

【目的】	島民と観光客の安全を守るための、前浦集落より灯台までの山道及び灯台から湛江集落までの周遊山道整備
【効果】	山道の草刈りや整備、道を覆う木の枝を伐採する事で景観を守る事ができる。また、人が定期的に整備に入ることにより、イノシシの害獣対策にもなる。

2 実施期間

令和 5 年 6 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日
 (計画期間 年中 年目)

3 実施場所

島内

4 活動に関わった人数・団体

○総人数： 18 人（ア+イ）
 （内訳）企画運営に関わった人数： 10 人（ア）
 その他関係人数（当日参加者等）： 8 人（イ）
 ○団体： (団体名) 岡山学院大学 , (団体名)
 (団体名) , (団体名)

5 実施内容

前浦集落から灯台までの山道及び、灯台から湛江集落までの周遊山道の整備として、主に観光シーズンやイベント前に年3回程度草刈り、樹木の伐採を実施する。また、数年前からイノシシによる水仙の球根掘り起し被害があり、景観が悪くなっている所の植え替え作業。

6 決算額

214,177 円（うち交付金分 203,000 円）

7 活動実施による成果及び課題

【成果】	観光や交流で訪れた人たちが安全に島散策をすることができた。
【課題】	高齢化が進む島では担い手不足が直近の課題である。参道での作業は足場も悪く、危険も伴うため、山へ入るシーズンを限定するなどの対応も必要と考える。

様式第25号（第5条関係）

令和 5 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）収支決算書

協議会名 六島まちづくり協議会

活動No	1
活動名	山道整備

【収入の部】

(単位：円)

費目	予算額	決算額	差引	摘要
市交付金	① 203,000	203,000	0	当該年度分
その他収入	0	11,177	△ 11,177	
		11,177	△ 11,177	
			0	
			0	
計	203,000	214,177	△ 11,177	

【支出の部】

(単位：円)

費目	予算額	決算額	差引	摘要
報償費	27,000	0	27,000	別紙「出納簿」のとおり
旅費		0	0	〃
需用費	161,000	174,897	△ 13,897	〃
役務費	15,000	12,000	3,000	〃
使用料及び賃借料		0	0	〃
備品購入費		27,280	△ 27,280	〃
	0	0	0	〃
	0	0	0	〃
			0	
			0	
計	203,000	214,177	△ 11,177	決算額のうち市交付金分 ② <u>203,000</u>

市交付金の余剰金 ①-② 0 円

市交付金の余剰金のうち

次年度繰越額 ③ 円 返還額 ④ 0 円

※ 収入及び支出の区分欄は、適宜変更して使用すること。

出 納 簿

交付金区分 活動交付金

活動名 山道整備

費目	需用費	消耗品費
----	-----	------

No. 1 ↑ドロップダウンリストから選んでください。

No.	年	月	日	支払先	摘 要	支出額	支出累計
1	5	5	25	ホリデー笠岡店	ナイロンコード	6,512	6,512
2	5	5	25	コーナン笠岡シーサイドモール店	草刈り先端部品	4,689	11,201
3	5	6	10	ホリデー笠岡店	ナイロンコード	3,696	14,897
4	5	7	26	ホリデー笠岡店	ナイロンコード	9,240	24,137
5	5	9	14	ユーホー笠岡店	ナイロンコード	11,880	36,017
6	5	9	22	ユーホー笠岡店	草刈り刃	2,376	38,393
7	5	9	22	コーナン笠岡シーサイドモール店	草刈り刃	3,237	41,630
8	6	3	27	ユーホー笠岡店	ナイロンコード、草刈り刃	16,500	58,130
9	6	3	27	ホリデー笠岡店	ナイロンコード	9,240	67,370
10	6	3	28	コーナン笠岡シーサイドモール店	チタニウムコード	6,578	73,948
11	6	3	31	コーナン笠岡シーサイドモール店	ロープ	5,989	79,937
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
No. 1 小 計						79,937	

自己評価シート

(令和 5 年度)

No. 1

協議会名	六島まちづくり協議会
活動名	山道整備

活動目的	島民と観光客の安全を守るための、前浦集落より灯台までの山道及び灯台から湛江集落までの周遊山道整備
実施内容	前浦集落から灯台までの山道及び、灯台から湛江集落までの周遊山道の整備として、主に観光シーズンやイベント前に年3回程度草刈り、樹木の伐採を実施する。また、数年前からイノシシによる水仙の球根掘り起し被害があり、景観が悪くなっている所の植え替え作業。

活動段階	評価項目	評価点
計画段階	地域の子供から高齢者まで幅広い世代の意見をきいて活動を計画することができたか。	4
	活動の目的・効果を地域の人々で共有することができたか。	4
	活動に参加する人々で話し合い活動計画を立てることができたか。	4
	活動計画の目的・効果・内容などを地域住民に周知・共有できたか。 (活動の経費・理由・内容など)	4
	計画段階からより多くの住民や団体が活動に参加できるような呼びかけができたか。 (広報手段・日程調整など)	4
実施段階	活動中、地域住民が積極的に参加できる環境づくりができたか。 (男女共同参画の推進、地域の若者などに対して活動参加への積極的な呼びかけなど)	2
	活動中、参加者や協力団体とお互いの特性を活かした役割分担ができたか。	4
	活動中、地域住民や協力団体と協力して活動を進められたか。	4
	活動の進み具合に応じて、臨機応変に対応できたか。	4
振り返り	活動終了後、活動の成果や課題について人々で話し合うことができたか。	4
	地域のニーズに合致した活動ができたか。	4
	活動の成果や課題を共有し、今後の活動に向けて話し合うことができたか。	4
	活動をとおして、地域の中でまちづくり協議会の周知と理解を深めることができたか。	4
	活動終了後、活動の成果や課題を地域に地域に向けて周知することができたか。	4

※評価点について

4:よくできた 3:まあまあできた 2:あまりできなかった 1:全くできなかった

活動の成果 観光や交流で訪れた人たちが安全に島散策をすることができた。	現状と課題 高齢化が進む島では担い手不足が直近の課題である。参道での作業は足場も悪く、危険も伴うため、山へ入るシーズンを限定するなどの対応も必要と考える。
--	--

今後の活動の方向性・改善策

協議会の事業を通して関係人口となった人が積極的に草刈りなどを手伝ってくれた。学生さんや女性はエンジン草刈りの取り扱いに慣れていないので、初心者でも使いやすい機械を貸し出せるよう整備したい。山道に加え、島を周遊できるお大師道の参道も整備する必要がある。

様式第24号（第5条関係）

令和 5 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）活動実績明細書

協議会名 六島まちづくり協議会

活動No	2
活動名	「せとうち六島塾」の開催
前年からの繰越金	

1 目的、活動実施により期待される効果

【目的】	過疎高齢化の中、六島まちづくり計画では「外部のサポート人材の獲得」を掲げている。島外の方が、まず、関係人口として関わり、そして、「移住」につなげる事業展開が必要。島の良さを積極的に島外の方々に伝える取り組みを「塾形式」で実施することにより、関係人口を増やす取り組みとする。
【効果】	島暮らしは島民の方が一番よく知っていることであり、島民が講師になることでより暮らしを体験できるプログラムになり、定期的にこの塾が継続していくと共に関係人口が増え、将来的には移住者へもつながると確信する。また、島民との体験プログラムを島外に発信するためには、その人のひととなりも含めて動画以外に伝える方法はないと考えて、塾と併せて島の体験を動画にて有効に発信していく。

2 実施期間

令和 5 年 6 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日
 (計画期間 1 年中 1 年目)

3 実施場所

島内、市内

4 活動に関わった人数・団体

○総人数： 40 人（ア＋イ）

（内訳）企画運営に関わった人数： 15 人（ア）

その他関係人数（当日参加者等）： 25 人（イ）

○団 体： （団体名） 六島小学校 ， （団体名） 六島公民館

（団体名） 岡山学院大学 ， （団体名）

5 実施内容

6/20、7/25 島民向けの研修会 2回の「暮らし体験」の考え方・塾内容づくり勉強会
 「せとうち六島塾」塾生募集（10名程度）
 9/23 1回講座 島でのボランティア活動による島民との協働作業の実施
 島講師：三宅勝広・六島の教科書づくりについて
 10/21 2回講座 島の資源を活用した「暮らし体験」の実施
 島講師：三宅忠信・ひじき・ワカメ等の資源利用について
 11/25 3回講座 島暮らし体験、意見交換会、振り返り
 島講師：井関竜平・島ビールの取り組みについて

6 決算額

294,520 円（うち交付金分 294,520 円）

7 活動実施による成果及び課題

【成果】	事前研修会を行い、ツアーを組む際の大事なことやノウハウを学ぶことができた。島民が講師となることで、リアルな島暮らしや島の課題、必要とする支援などを塾生が知ることができ、積極的に関係人口として、自分の得意分野で島に関わりを持ってきている。岡山学院大学の先生や生徒さんも参加して下さり、島の食という分野でもアイデアをもらえた。
【課題】	インターネットでの塾生の募集や面接、出欠の確認など、コーディネーター役の藤井氏なしではできなかった。事務的な仕事を学ぶ必要がある。

様式第25号（第5条関係）

令和 5 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）収支決算書

協議会名 六島まちづくり協議会

活動No	2
活動名	「せとうち六島塾」の開催

【収入の部】

(単位：円)

費目	予算額	決算額	差引	摘要
市交付金	① 295,000	294,520	480	当該年度分
その他収入	0	0	0	
			0	
			0	
			0	
計	295,000	294,520	480	

【支出の部】

(単位：円)

費目	予算額	決算額	差引	摘要
報償費	100,000	100,000	0	別紙「出納簿」のとおり
旅費	85,000	94,520	△ 9,520	〃
需用費	110,000	100,000	10,000	〃
役員費		0	0	〃
使用料及び賃借料		0	0	〃
備品購入費		0	0	〃
0		0	0	〃
0		0	0	〃
			0	
			0	
計	295,000	294,520	480	決算額のうち市交付金分 ② <u>294,520</u>

市交付金の余剰金 ①－② 480 円

市交付金の余剰金のうち

次年度繰越額 ③ 円 返還額 ④ 480 円

※ 収入及び支出の区分欄は、適宜変更して使用すること。

出 納 簿

交付金区分 活動交付金

活動名 「せとうち六島塾」の開催

費目 報償費

No. 1

No.	年	月	日	支払先	摘 要	支出額	支出累計
1	5	6	20	講師A	島民向け研修会講師謝金 第一回目	10,000	10,000
2	5	7	25	講師A	島民向け研修会講師謝金 第二回目	10,000	20,000
3	5	11	25	講師B	六島塾 第二回目講師謝礼	10,000	30,000
4	5	11	26	講師C	六島塾 第三回目講師謝礼	10,000	40,000
5	5	12	3	講師D	六島塾 第一回目講師謝礼	10,000	50,000
6	5	12	7	コーディネーター	コーディネーター謝礼	50,000	100,000
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
No. 1 小 計						100,000	

出 納 簿

交付金区分 活動交付金

活動名 「せとうち六島塾」の開催

費目 旅費

No. 1

No.	年	月	日	支払先	摘 要	支出額	支出累計
1	5	6	20	三洋汽船	笠岡⇄六島	2,560	2,560
2	5	7	25	三洋汽船	笠岡⇄六島	2,560	5,120
3	5	11	25	動画撮影者	撮影旅費	31,320	36,440
4	5	12	7	コーディネーター	コーディネーター旅費	58,080	94,520
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
No. 1 小 計						94,520	

出 納 簿

交付金区分 活動交付金

活動名 「せとうち六島塾」の開催

費目 需用費

No. 1 ↑ドロップダウンリストから選んでください。

No.	年	月	日	支払先	摘 要	支出額	支出累計
1	5	11	25	動画撮影者	動画作成費	60,000	60,000
2	6	3	29	エフプランニング	報告書・チラシ印刷	40,000	100,000
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
No. 1 小 計						100,000	

自己評価シート

(令和 5 年度)

No. 2

協議会名	六島まちづくり協議会
活動名	「せとうち六島塾」の開催

活動目的	過疎高齢化の中、六島まちづくり計画では「外部のサポート人材の獲得」を掲げている。島外の方が、まず、関係人口として関わり、そして、「移住」につなげる事業展開が必要。島の良さを積極的に島外の方々に伝える取り組みを「塾形式」で実施することのより、関係人口を増やす取り組みとする。
実施内容	6/20、7/25 島民向けの研修会 2回の「暮らし体験」の考え方・塾内容づくり勉強会 「せとうち六島塾」塾生募集 (10名程度) 9/23 1回講座 島でのボランティア活動による島民との協働作業の実施 島講師：三宅勝広・六島の教科書づくりについて 10/21 2回講座 島の資源を活用した「暮らし体験」の実施 島講師：三宅忠信・ひじき・ワカメ等の資源利用について 11/25 3回講座 島暮らし体験、意見交換会、振り返り 島講師：井関竜平・島ビールの取り組みについて

活動段階	評価項目	評価点
計画段階	地域の子供から高齢者まで幅広い世代の意見をきいて活動を計画することができたか。	4
	活動の目的・効果を地域のみinnで共有することができたか。	3
	活動に参加するinnで話し合い活動計画を立てることができたか。	4
	活動計画の目的・効果・内容などを地域住民に周知・共有できたか。 (活動の経費・理由・内容など)	3
	計画段階からより多くの住民や団体が活動に参加できるような呼びかけができたか。 (広報手段・日程調整など)	4
実施段階	活動中、地域住民が積極的に参加できる環境づくりができたか。 (男女共同参画の推進、地域の若者などに対して活動参加への積極的な呼びかけなど)	4
	活動中、参加者や協力団体とお互いの特性を活かした役割分担ができたか。	4
	活動中、地域住民や協力団体と協力して活動を進められたか。	4
	活動の進み具合に応じて、臨機応変に対応できたか。	4
振り返り	活動終了後、活動の成果や課題についてinnで話し合うことができたか。	4
	地域のニーズに合致した活動ができたか。	3
	活動の成果や課題を共有し、今後の活動に向けて話し合うことができたか。	4
	活動をとおして、地域の中でまちづくり協議会の周知と理解を深めることができたか。	4
	活動終了後、活動の成果や課題を地域に地域に向けて周知することができたか。	4

※評価点について

4:よくできた 3:まあまあできた 2:あまりできなかった 1:全くできなかった

活動の成果	現状と課題
事前研修会を行い、ツアーを組む際の大事なことやノウハウを学ぶことができた。島民が講師となることで、リアルな島暮らしや島の課題、必要とする支援などを塾生が知ることができ、積極的に関係人口として、自分の得意分野で島に関わりを持ってきている。岡山学院大学の先生や生徒さんも参加して下さり、島の食という分野でもアイデアをもらえた。	インターネットでの塾生の募集や面接、出欠の確認など、コーディネーター役の藤井氏なしではできなかった。事務的な仕事を学ぶ必要がある。

今後の活動の方向性・改善策

今年度参加した塾生が複数名、OBOGとして引き続き活動に参加希望してくれている。来年度は島民講師のテーマに合わせて共に作業などを中心にした後、ワークショップも行いたい。